

うしくサイエンスフェスタ2012出展報告－化石の粘土模型（クレイモデル）をつくろう－

吉田清香・利光誠一・兼子尚知（産総研 地質標本館），猪瀬弘瑛・奥脇 亮（筑波大学）

2012年2月4日（土）に「うしくサイエンスフェスタ2012」が茨城県牛久市中央生涯学習センターで開催されました。このイベントは、牛久市教育委員会と地域の関係機関が協力して開催する科学イベントで、今回で6回目の開催となりました。このイベントでは、19種類の科学実験や体験コーナーを集めた「サイエンス・ラボ」と、環境学習の報告と交流を行う「カップ大交流会」が同時に開催されています。地質標本館では、2007年以来毎年ブースを出展しています。この日は寒い日でしたが、親子連れを中心に1,000人ほどの入場者で賑わいました。今回の地質標本館のブースでは、筑波大学から2名の協力を得て、計5名でブース運営を行いました。

今回のイベントでは「化石の粘土模型（クレイモデル）をつくろう」を出展しました（写真1）。この企画は、2007～2009年の出展以来3年ぶりの出展となりました。この企画の特徴は、化石の雌型（実物の印象化石）に直

接樹脂粘土を押し付けて凸型の模型を作ることです（写真2）。化石は、ネパール・ヒマラヤ山脈の標高4,000 m位にある産地から採集されたジュラ紀後期のアンモナイトです。イベントには、牛久市を中心に周辺地域から多くの親子連れが訪れ、地質標本館のブースでは115名の体験者（ほとんどが小学生以下の子供）に対してアンモナイトのクレイモデル作りを指導しました。普段、化石を触ったことのない子供が多く、初めて間近で見るアンモナイトに目を輝かせ、さらに化石を直に触って作業することから、皆さん大いに関心を持って臨まれたようです。クレイモデル作りの作業をする前に、アンモナイトの説明をし、現在標高が4,000mもあるヒマラヤ山脈中腹でどうして海に棲む生物であるアンモナイトの化石が出るのかについて考えてもらいました。そして、作業で作製したクレイモデルを実物の凸型のアンモナイトと見比べてもらおうと、そのでき映えに満足の様子でした。最後に、自作のクレイモデルを記念に



写真1 開始前にテーブル上に揃えたクレイモデル作製の道具類一式。化石説明や模型作製の方法を記したリーフレット，化石（アンモナイト），クレイモデル（模型）の見本，持ち帰るための透明プラスチックケース（フードパック）やビニール袋，ラベル，鉛筆等。さらに適度に切り揃えた樹脂粘土を準備して作業の開始となります。

持ち帰ってもらい、添付したラベルの写真を見ながら自宅で色づけをしていただくよう勧めました。自作のクレイモデルが色づけで本物らしくなるコツを伝授すると、皆さん喜んでいただけたようです。サイエンス・ラボは午後の3時間だけでしたが、参加者は列を作ることもなく、かつ絶

え間なく訪れていただけましたので、皆さんに満足して取り組んでいただけたのではないかと思います。地質標本館では、今後もこのようなイベントを通して、子供たちに地球科学に対する関心を高めていただきたいと思います。



写真2 よくこねた白い樹脂粘土を団子にして、化石の雌型にあてて模型作りをしているところ。実物の化石に直に触ることができるため、参加者は興味津々で取り組んでいます。

【スケジュール】

7月18日～9月30日	地質標本館 夏の特別展 「ミクロな化石で地球を探る—微化石と地質調査—」 (産総研, つくば市)
7月21日	産総研つくばセンター一般公開(産総研, つくば市) 地質標本館特別講演会「ジオパークへ行こう！」 普及講演会「放散虫が紡ぐ日本列島の物語」
7月28日～8月1日	International Symposium on Zeolites and MicroPorous Crystals (ZMPC2012) (アステールプラザ, 広島市)
8月3日	地質標本館夏休みイベント 「石をみがいてみよう!!」(産総研, つくば市)
8月4～6日	日本地学教育学会第66回全国大会
8月5～10日	第34回万国地質学会議 (IGC, オーストラリア・ブリスベン)
8月13～17日	AOGS - AGU (WPGM) Joint Assembly Resorts World Convention Centre (Singapore)
8月20～22日	日本第四紀学会2012年大会 (立正大学, 熊谷市)
8月20日～24日	第48回熱測定討論会およびThe 15th International Congress on Thermal Analysis and Calorimetry (近畿大学, 東大阪市)
8月21～23日	日本進化学会 第14回 東京大会 (首都大学東京, 八王子市)
8月22日～23日	第30回有機地球化学シンポジウム (東北大学, 仙台市)
8月24日	地質標本館化石クリーニング教室 (産総研, つくば市)
8月25日	地球何でも相談日 (産総研, つくば市)

◆ 編集後記 ◆

今号の表紙写真は、斉藤麻子さん撮影の岩手県遠野市にある花崗岩の巨石です。本号が皆さんに届いているころは、梅雨明けの暑い日々が続いていると思いますが、東北の爽やかな夏に思いを馳せていただければと思います。

さて今月は、口絵3編、記事4編、新刊紹介とニュースレター1編ずつを皆様のもとにお届けします。口絵は、噴火から一年半近くたち噴火警戒レベルが下げられた霧島火山新燃岳の空撮写真、珍しい等粒状組織をもつ岩脈、それと本号の特集であるつくばセンターの一般公開で行われた「ジオ ドクトル」についてなどです。「ジオ ドクトル」は他の3編の記事により特集となっております。住田さんの記事は「ジオ ドクトル」の“学位”認定の際に提出していただいたアンケート結果についての報告です。一般公開にこられた、“ドクトル”達が楽しんだ様子が伺える報告です。その他、吉川さんほかのジオトイの紹介記事や、奥山さんほかのCO₂地中貯留の展示紹介記事などを通して、“ドクトル”達の楽しみのもとが伺えます。

特集の他、巻頭記事には西村さんの深海泥中のレアアース資源の紹介があります。ちょうどこの後記を書いている時、南鳥島近海でのレアアース開発計画の記事が新聞をにぎわしております。西村さんの記事は、その理解を助ける良い紹介です。その他、加藤さんの新刊「日本の地形・地質 見てみたい大地の風景」紹介、吉田さんほかの「うしくサイエンスフェスタ」でのブース出展の報告、表紙解説などもあります。お楽しみ下さい。

(7月号担当: 及川輝樹)